

水田から園芸 転換支援

生産・実需連携で大規模生産

来年度の農水事業

農水省では来年度も引き続き、水稲から園芸作物への転換を図る「新しい園芸産地づくり支援事業」(当初予算額14億600万円、今年度予算額22億7300万円、以下カッコ内同じ)を実施する。実需者ニーズに対応した野菜や果樹、花きの生産拡大を実現するには、まとまった規模で大ロット

生産が可能な水田地帯において、生産者と実需者等が連携した新しい園芸産地の育成が必要。そのため、水田から園芸作物に転換する際の技術面や販売面の課題を克服するもの。

そのうち「園芸作物生産転換促進事業」(6億7100万円、14億8000万円)では、水田地帯

において、生産者と実需者等の関係者で構成されるコンソーシアムによる推進体制により、産地の合意形成、品種の選定や出荷先の確保、排水対策や栽培技術の確立、機械・施設のリース導入など、新たな園芸産地の育成に必要な取組みを一体的に支援する。

一方、「加工・業務用野

菜生産基盤強化事業」では、輸入野菜からのシェア奪還に向け、加工・業務用野菜への転換を推進する産地を対象に、加工・業務用野菜の安定生産・安定供給に必要な土壌・土層改良、被覆資材の使用等の作柄安定技術の導入に必要な経費を支援する。対象品目はキャベツ、タマネギ、ニンジン、ネギ、カボチャ、ホウレン草、レタス、スイートコーン。